

令和6年度「カラーユニバーサルデザイン普及キャラバン隊事業」事業実施報告

令和7年3月4日

団体名 NPO人にやさしい色づかいをすすめる会

事業名 カラーユニバーサルデザイン普及キャラバン隊事業

1. 事業の内容

(1) 事業の目的

愛知県内の自治体職員が、カラーユニバーサルデザイン普及キャラバン隊による出前講座を通して色覚の多様性について理解を深め、カラーユニバーサルデザインの必要性を認識するとともに、自らカラーユニバーサルデザインを実践・推進する戦力となることを目的とする。

(2) 実施内容

以下3市町の市町村職員および県職員を対象に2025年1月16日～2025年2月4日の2ヶ月間に計3回、それぞれ約2時間の講座「カラーユニバーサルデザイン推進支援講座」を実施した。

令和6（2024）年度 カラーユニバーサルデザイン推進支援講座一覧

実施日時	参加人数	会場
2025年1月16日（木） 13：30～15：30	15人	長久手市役所の研修室 長久手市岩作城の内60番地1
2025年1月29日（水） 15：00～17：00	28人	刈谷市保健センター 3階講座室 刈谷市若松町3丁目8番地2
2025年2月4日（火） 14：00～16：00	19人	武豊町役場 2階 第3・4会議室 知多郡武豊町字長尾山2番地
合計	62人	

カラーユニバーサルデザイン推進支援講座は、前半を講義、後半をワークショップとする二部構成で実施した。冒頭と最後に主催者側の挨拶を含め、それぞれ60分ずつの時間配分として計画しており、すべて時間通りに滞りなく開始・終了した。

次いで講座内容を簡単に報告する。前半第一部の講義では、講師がスライド資料をスクリーンに映しながら色覚の多様性とカラーユニバーサルデザイン（以下CUDと称す）の実践的な手法について解説した。色覚の多様性とCUDの必要性を理解してもらうには教科書的な説明だけでは十分ではないため、講義の半ばに色弱模擬フィルタ（バリエントール）をかけて色紙を分類し色の見分けにくさを実体験するワーク、さらに色覚タイプの異なる色弱当事者2人が個人的な体験や色覚に関する私見を語る談話も挿入した。講義の流れは昨年までと変わらないが、スライド資料のわかりや

すさが増し、会場となる市の発行物をCUDの視点で事前調査した結果を盛り込む等、提供する情報のアップデートをしっかりと行った。

後半第二部のワークショップでは、以下の4つの異なるプログラムを用意して募集したところ、3市町いずれもプログラムAが選択された。

- ・プログラムA：受講者が持参した印刷物のチェック
- ・プログラムB：受講者から提案された CUD 的課題をめぐるディスカッション
- ・プログラムC：市役所（研修所）館内の CUD チェック
- ・プログラムD：Officeツールを用いたCUD対応文書作成ワーク

実施したプログラムAでは、受講者が持ち込んだ広報誌やイベントのチラシ、ポスター、公共施設のリーフレット、防災関連マップ、ごみカレンダー等、自らが作成・発行した印刷物やウェブサイトでの色づかいをグループに分かれて見直し、改善すべき点などをまとめてもらった。いずれの市でも、色弱模擬フィルタや色弱者の色の見え方を体験するためのスマートフォンアプリ「色のシミュレータ」を駆使し、当事者と講師を交えてグループで熱心に議論する姿が見られた。長久手市と刈谷市では、ごみカレンダーやハザードマップにCUDの視点から改善すべき点が明らかとなり、当事者の意見も取り入れて改訂版を作成したいとの声をいただいた。

ワークショップの最後に各グループの気づきを全体で共有する時間を設け、講座全体のまとめとした。より具体的な講座内容は、「カラーユニバーサルデザイン普及キャラバン隊事業」完了報告書に添付した講義用スライド資料（資料01①）とアンケートおよびワークシート集計結果報告（同資料01②）、3会場の様子を撮った記録写真（同資料01③）を参照されたい。

講座の時間については、1コマの研修として2時間は適切であった。これまで、冒頭と終了時に主催者の挨拶や事務連絡が入り10分の休憩を挟むため、実質講義50分、ワークショップ50分となり、かなりタイトな印象があった。今年度はその点を改善した。事前に担当者に相談のうえ前後の挨拶をコンパクトにし、参加者の了承を得たうえで、途中10分の休憩を取らずに後半のワークショップを始めることにした。トイレや水分補給の時間は、グループワーク中に各自が必要に応じて取るように変更し、特に問題はなかった。

アンケート回答を見ると、「長かった」と「短かった」との回答はゼロ、「少し長かった」は56人中2人（3%）、「ちょうどよかった」は53人（95%）、「少し短かった」は1人（2%）であり、大半の受講者にとって2時間は適切な時間であったことがわかる。

「少し長かった」と「少し短かった」と「ちょうどよかった」が混在したのは長久手市で、他2市町では100%「ちょうどよかった」である。長久手市で回答のばらつきが見られた要因を探ることは今後の宿題としたい。

運営については、キャラバン隊事業も5年目となり、実施メンバーは要領を掴んでさらにスムーズに動けるようになり、各自治体担当者の協力もあって、開始・終了時間も予定通りに進み、すべて滞りなく進めることができた。今年度はワークショップでインターネット接続を要するプログラムがなかったこともあり、通信環境によるトラブルは生じず、また講師PCとプロジェクタ接続の間

題も昨年度解消された（自治体側がスライド資料を保存したPCを用意することにした）。自治体側の担当者と当会の事前打合せをしっかりと行ったこと、それによる信頼関係が当日のスムーズな運営のベースにあることも記しておきたい。

2. 参加者状況

参加者は3会場で計62人であった。上掲表の通り、その内訳は長久手市が18人、刈谷市が26人（視察の愛知県職員1人を含む）、武豊町が19人である（長久手市は昨年につき2回目の実施となった）。事業計画段階では、5会場で実施、1会場につき定員を50人として少なくとも150～170人程度の参加を見込んでいたが、完了報告書で記したように3市町の実施となり、見込み数より大幅な減少となった。2市町では20人以下であったが、少人数ならではのメリットはある。ワークショップで形成するグループを4、5人×4つ作ると、ちょうど講師とスタッフが4人なので各グループに1人参加できることになり、人数的にもディスカッションが効果的に進むことに気づいた。

参加者の講座に対する感想や評価は、講座終了時に実施したアンケート結果報告に詳しく示しているので、そちらを参照されたい（「カラーユニバーサルデザイン普及キャラバン隊事業」完了報告書に添付した資料01②参照）。ここでは、講座の有益性を問うた質問への回答集計結果（完了報告書にも記載）と、自由記述のなかから数件を紹介したい。

アンケート問3で「今回の推進講座は、あなたにとって有益でしたか」との問いに対し、回答者の98%が「ひじょうに有益だった」と回答している（アンケート回収率は90%）。長久手市で「普通」が1人だけで、それ以外はすべて「ひじょうに有益だった」であった（資料01②参照）。このようにひじょうに高い評価を得た理由は、上述した本講座の特色に加え、講座のコンテンツの継続的な見直し、講義で使用するスライド資料のブラッシュアップ、スタッフ全員の講座運営スキルアップにあったと考えている。

次にアンケートの自由記述から、自治体職員を対象とする本講座の有用性を示すものをいくつか紹介する（開催した会場順）。いずれも講座から学んだことを今後の業務に還元したいとの意志が示され、CUD推進の実現が期待される。

- ・今までこのような講習を受講したことがなかったので、とても勉強になった。外注、手作り含め、1年間に多くのチラシ等を発行・配布するので、作成の際には今回の講習で学んだことや気づきを生かし、誰にでも見やすい刊行物となるよう配慮したい。色弱の当事者の方のお話がうかがえたことはとても良かった。また同様の講習があれば参加したい。
- ・仕事柄、市民の方へ「伝える」ことが多い。その中で、どのようにしたら一人でも多くの人に伝えられる色づかいを行えば良いかということがわかった。学んだことを仕事に活かしていきたい。
- ・多くの市民の方が日常的に活用しているだろう、ごみカレンダーに見づらい部分があったことがわかり、反省しました。少しでも意識をもつことで、改善できると気がつきました。
- ・自分は、目立つと思っていた配色が実は色弱者にとってそうではなかったという気づきが多くありました。また色について「何色のチラシ」と言ってお知らせしていたので、対応する際には色以外

の情報を組み合わせて伝えていきたいと思いました。

- ・目立つ色として“赤”という意識がずっとあったが、色弱の方にとっては逆に目立たない色になっていることが衝撃でした。今まで意識していなかった、気づかなかったことが大変多くあり、今後、誰にでも分かりやすい掲示・案内作りを心がけたいと思いました。
- ・3歳児健診で「好きな色どれ?」「何色?」「赤色どれ?」と色を聞くことがありますが、色覚が異なる児にとっては自分が赤色と思っている色が異なる場合があると分かりました。健診では赤・青・黄みのですが、児と関わる中で、赤が赤とっていない児、その色を赤として覚えていく児もいると頭に入れておきたいです。
- ・3歳児健診で色の判別も検査しますが、色が分からない時に色弱によるものなのか色自体知らないのか2パターンあるなと思いました。
- ・色覚異常ということは知っていましたが、今までどんな見え方をしているのかについては知る機会がなかったので、スライドで見え方を知ることができたことがとても良かったです。赤と緑が同じように見えることや、赤が黒く見えること、赤字は白抜き文字で目立たせるとよいという、実際に業務で役立つ方法が学べました。今後の業務ですぐ生かしていきたいと思います。
- ・自身が作成したものを持ち寄って、具体的に改善点などを見つけることができて良かったです。中にはすぐに直せるものもあったので、改善してより良いものをつくることができるといいなと思いました。
- ・ハザードマップ作成時にアプリを使って長時間かけて色を決めましたが、今日の講座で意識すべき点についてとても参考になりました。また現状ハザードマップの課題をグループで共有し、講師の方にご意見いただいたことで今後の修正に活かすことができると思います。
- ・以前の所属で作った報告書でCUDを意識したことがあった。このように以前の仕事のことがありましたので、意識していたと思っていましたが、まだまだ理解が全く不足していたことを痛感しました。紙の色については目からウロコでした。「ピンクの用紙の○ページの通り・・・」とか、「水色の封筒に・・・」などと日常的に使っており、これはすぐに改善したいと思いました。C型もD型もP型も皆が見やすい判断しやすい色づかいを心がけたいと思いました。本当に為になる講義でした。
- ・自分自身が色弱のため、これまで困ることは多々ありましたが、C型の方々がどのように見えていて、どのような意図で配色していたのかを知ることができたことは有意でした。市役所の中にも私と同じように当事者はいると思うので、パンフレット等がCUDに配慮されているかチェックするという役割を担えるのではないかと思います。
- ・実際に使用すべき色の設定を教えていただいたので、すぐに活用できると思いました。また自分たちが現在使用しているリーフレットを検証したことで、より身近な物で考えることができ、理

解が深まりました。

- ・一番良かったのは当事者の意見を聞けたことです。実際の広報物を見ていただき改善点を提案してもらえたのは非常に有益でした。
- ・紋切り型の講義ではなく、多岐にわたるチェック方法、対処方法を紹介頂けた事が有用であり、実効性を高められる期待が高まった。

3. 担当者の感想・まとめ

担当者全員で推進講座終了後に本事業全体の振り返りを行った。後日コメントを出し合い今後の活動改善に活かしている。以下にそれらのコメントを①感想・意見一般、②良かった点、③改善すべき点に分けて示し、まとめとしたい。

①感想・意見一般

- ・今年度は実施準備に掛けた時間は確かに少なかった印象があります。要因は、派遣が3市町と少なかったこと、ワークプログラムが3回すべてスタンダードなAだったこと、講座メニューが定着してきたこと、講師メンバーも安定していたこと等です。しかし、反面、5市町村に満たなかった状況分析の必要性を感じ、せめて参加人数を少しでも増やしたい、参加者の満足度をより高め、講座後CUDの取り組み実績を視覚化させたいという気持ちが働きました。このため、事業遂行への思いは強かったです。
- ・CUD啓発の対象として自治体職員、教員学校関係者は望ましく、各種の一般研修ではなく、具体的な理解をしていただいているとの実感があります。
- ・受講者からは高評価を受けているのに派遣先応募件数が企画に満たない事態となっていたことについて。この乖離をどう見るか、県は分析し今後の対応を考えていると思いますが、分析や今後の対応を検討する場に当会が参加する機会を望みます。自治体向けキャラバン事業は需要がないのか、オンデマンド教材でのCUD普及啓発にシフトすれば愛知県のCUDは推進されるのか？CUDの推進を望む当会として県の判断が気になります。
- ・対面式の講座はCUD普及には効果があることを実感する。特に色弱当事者に素朴な疑問をぶつけながら、自分たちが作成した資料が当事者にどう見えているかを知り、CUDについて学べる機会はたいへん貴重なものだ。アンケート自由記述を読むとそれがよくわかる。今後キャラバン隊事業がオンデマンド教材使用へと移行する計画だと聞いている。より多くのひとに情報を届けることは重要だが、対面形式も継続してほしい。

②良かった点

- ・ワークショップのプログラムが3会場すべてAだったのは良かった。プログラムAが初めての人には一番良いワークだと思う。
- ・アンケートの評価が良かったこと
- ・派遣先担当者との事前打合せが良好だったこと。特に刈谷市保健センターの担当者は、色弱の見え方やCUDの知識を持つ必要性を理解され、参加者募集も積極的であった。また、打合せの数日後には自身の部署で作成中の刊行物表紙の助言依頼にも応じました。
- ・ワークの最後に多くの発表者から気づきや改善の意思表示をもらえたこと。特に、刈谷市水害ハ

ザードマップの担当者の参加があり、CUD対応のものに改善していく意思表示をいただいたこと。

③改善すべき点

- ・ワークショップで一つの島（グループ）で時間を使ってしまうので、いつもすべての島を回れない。時間配分に気を付けて全ての島を回れるようにしたい。
- ・講師陣が4人なので、島（グループ）も4つ以下にしておくのが良いかもしれない。
- ・当事者の話で信号機を題材にしましたが、もっと題材や語る内容を練っておくべきでした。ワークショップでは初め勝手が分からず、質問があるまで傍観してしまい、もったいない時間を過ごしてしまいました。中盤以降は自分から切り出しざっくばらんなやりとりが出来て良かったと思いますが、全てのテーブル、全ての方と接することが出来なかったのが、終盤調子が出てきただけに残念でした。また機会があれば、今度は時間配分を考えながら対応できるかなと思います。
- ・講義の時間配分と内容について毎回感じるのですが、色弱体験の後、個々に考察したり周囲とシェアする時間はとても大事なのに、その時間を確保することが難しいので、どこを削った講義にしたらいかが検討が必要。
- ・参加者のグループ分けについて、所属部署をあえてばらしたグループ分けが良いか、まとめた方が良いかの検討が必要。ばらされていると、教材の個々の事例を目にでき視野が広がるが、ワークの最後の発表内容が複雑でやや理解しにくいかもしれない。部署がまとまっていると、共通の教材でチェックでき、講師の我々も教材の理解、助言もしやすく、各グループの発表内容も理解しやすい。しかし他部署の教材を見て視野を広げる機会が奪われることになる。そうしたメリット、デメリットを事前打合せで伝えただけで、どうグループ分けするかを担当者に決めてもらうのがよいかもしれない。

以上、CUD推進支援講座の意義をわれわれ自身が自覚し、より効果的なあり方を再考する機会となった。最後に、こうした貴重な機会を与えられたことに深く感謝申し上げます。

以上